

中世の信仰の道

長野県立歴史館 村石正行先生

実施日：令和3年4月27日（火）



第2回目は、長野県立歴史館から村石正行先生を講師に招き、「この道は極楽浄土へ続く～鎌倉から善光寺へ～」というテーマで講義をしていただいた。中世の仏教観は、阿弥陀如来が極楽浄土へ導いてくれるというものであり、その対象は貴族や功德を積んだ人物に限定されていた。誰しもが等しく極楽浄土へ導かれるようにと願い、善光寺信仰を広めた一遍上人は、立科や佐久を訪れたという記録が残っていることを教えていただいた。今でも長野県内には一遍が広めたという“踊念仏”が行われている地域がいくつかあり、800年以上前に生きていた人物の足跡を感じることができた。

【生徒の授業日誌より】

・中世が900年前から約500年間も続いた時代だということに、ものすごくびっくりしました。空也というお坊さんが「南無阿弥陀仏」という念仏を広めたから、今までその言葉が続いていることがすごいと思いました。「信不信をえらばず、浄不浄をきらわず…」という言葉がとてもいいと思いました。

・中世の時代から善光寺は重要な場所だということを知り、長野県民として誇らしいと思いました。長野県内にもいろいろな踊念仏がありびっくりしました。

・踊念仏がとても心に残りました。たくさんのところで行われていてすごいと思いました。「南無阿弥陀仏」と唱えた空也さんもすごいと思いました。その言葉でたくさんの方が救われたと思います。また、絵（二河白道図）もすごかったです。火の川と水の川がすごくわかりやすく描いてあっておもしろかったです。

・極楽へ行くためには生きている間に良いことをしなくてはいけないので、明日から人に対して感謝をする、いじめをしない、など当たり前のことを当たり前にしていきたいと思います。昔の日本の姿を聞いて「苦労していたのだなあ」と思いました。また、男女差別があったようですが、差別というものは誰も幸せになれないので、今の時代に差別がなくてよかったと思います。

・善光寺は日本最古の阿弥陀如来があり、全国から庶民が極楽浄土を願い訪れたという歴史があることが分かった。一遍さんは誰でも極楽へ行けるよう善光寺や佐久を訪れ、踊念仏を広めたと知り、とても行動力のある人だと感じた。立科にもそのゆかりの場所があるということが知れた。